# 本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために 〜総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援〜

[ 2023/06/05版 ]

# 本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために



P. 01 オープニング

こんにちは、寒川町社会教育委員のXX(名前)です。 これから私たち、図書館部会で協議した内容について、発表させていただきます。

#### はじめに

子どもの読書活動は、考える力、感じる力、想像する力、表現する力などを身に付ける上で極めて重要であることから、全ての子どもたちが楽しく自主的に読書に親しむことのできる環境を整備する必要があります。

それらを踏まえて、協議テーマは、 本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために 〜総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援〜 と、しました。

活動期間は、平成30年度~令和3年度までの4年間となります。 残念ながらコロナ禍でのイベントの中止・縮小などを受けて、後半は思うように活動で きませんでした。 (令和4年度から少しずつ活動が再開しております。)

1.テーマの選定理山

P. 02

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために何ができるか、何をすべきか…。 町や図書館、また地域として何ができるか、何をすべきかなどについて、協議を行い ました。

#### 1.テーマの選定理由

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために 何ができるか、何をすべきか

#### [背景]

- ・家庭教育:多様化する家庭環境
- ・社会教育:社会(地域)の持続的発展
- · 学校教育:読書活動の推進

# P. 03 [ 1. テーマの選定理由]

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けるうえで欠くことのできないものです。

しかし、我が国における 子どもの読書離れが言われて久しく、 また本町もその例外 ではありません 。

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるための前提条件として、

- 家庭教育の向上に資するため、一体となって子どもの読書活動を推進する。
- ・学校や地域と連携する。
- ・子どもたちが読書を楽しみ、資料を活用した調べ学習に取り組むなどを通して、子どもたちの豊かな学びを応援する図書館を目指す、としました。

# その結果、背景として、

- •家庭教育:多様化する家庭環境
- ・社会教育:社会(地域)の持続的発展
- ·学校教育:読書活動の推進

があるとして深堀(ふかぼり)を進めました。

2.現状と課題、取組

P. 04

浮かび上がった3つの背景。 順をおって、それぞれ、説明したいと思います。

#### 2.現状と課題、取組

#### 2-1.子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会つくり

・家庭教育:多様化する家庭環境

小学校低学年までは、父・母、 祖父・祖母に連れられての来館が多い



#### P. 05 [2. 現状と課題、取組]

「家庭教育:多様化する家庭環境」については、

子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会つくりに注目しました。 幼少期から親子で本に親しむことで、家庭教育は充実し、成長してからも読書習慣や図書館に足を運ぶことに繋がります。

そのために、幼少期から本の魅力を伝える活動は、重要です。

調査したところ、小学校低学年までは、両親、祖父・母に連れられての来館が多いこ とから、大人が来館しやすい工夫も必要だと分かりました。

つまり、連れてくる側の、来るきっかけ作りが欲しくなりました。

[未就学児や大人への図書館に来館する機会を多く作ること]

図書館に興味を持って足を運んでもらうため、イベントを積極的に取り入れました。 また、図書館で来館してくれることを待つだけでなく、子育て支援センターへ出向くな ど、館外で本の魅力を伝える活動も重要であり課題です。

#### 2.現状と課題、取組

- 2-2. 図書館のイベント(子ども読書推進事業)
  - ·社会教育:社会(地域)の持続的発展
    - ◆ 図書館祭り
  - ◆ わくわく読書マラソン



P. 06 [2. 現状と課題、取組]

「社会教育:社会(地域)の持続的発展」については、図書館のイベント(子ども読書推進事業)として、

- ・図書館祭り
- わくわく読書マラソン から取組みました。

[子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会つくり]とリンクするため、取組みにあたって、

- ・ターゲットを明確にする。:イベント対象は、乳幼児、小、中、高校生など…
- ・イベントの申し込み日に配慮する。: 子ども対象のイベントの申込日は\*土日にするなどを考慮しました。平日の受付開始では、働く保護者が対応できないとの配慮です。



P. 07 [図書館まつり]

# 社会教育:社会の持続的発展

イベントの事例紹介として、図書館まつりを紹介します

図書館まつりでは、図書館内で体験型のイベントを開催し、図書館に親しんでもらいます。

主な取り組み(コーナー)としては、

- わたしのおすすめ本
- ・ひと棚図書館
- ・ハロウィン仮装写真展
- ・としょかん川柳
- ・としょいん(御朱印の図書館版)

図書館まつりは、イベントとして成功しましたが、この集客が今後の図書館利用にどう結び付くか、注目しているところです。



P. 08 [わくわく読書マラソン]

二つ目は、わくわく読書マラソン。夏休みの子どもの読書を支える活動です。 ねらいは三つ。

[ 読む楽しみ ] 本に触れる体験や読書の楽しみを感じてほしい

[習慣化] 夏休み中続けることで、読書の習慣化の定着

[ 共 有 ] 子ども同士の目線による、おすすめ本の発信・共有

わくわく読書マラソンは非常に良い企画で、全年齢を対象にすべきとの意見から、 大人版の"わくわく読書マラソン"を検討しています。

また、図書館の認知、図書館利用の促進について、現在の取組で足りているか、に注視していくところです。

#### 2.現状と課題、取組

#### 2-3.読み聞かせ活動(連携事業)

·家庭教育:多様化する家庭環境

◆O歳児(ブックスタート)

・社会教育:社会(地域)の持続的発展

◆公民館(図書館)との連携

·学校教育:読書活動の推進

◆小学校での読み聞かせ

P. 09 [2. 現状と課題、取組]

# 2-3.読み聞かせ活動(連携事業)

次に、読み聞かせ活動(連携事業)について、です。

- ・O歳児(ブックスタート)は、家庭教育(多様化する家庭環境)に、
- ・公民館(図書館)との連携では、社会教育(社会の持続的発展)と、
- ・そして、小学校での読み聞かせでは、学校教育(読書活動の推進)

に関わることが分かりました。

読み聞かせ活動(連携事業)を通じて、

背景にある「多様化する家庭環境」、「社会の持続的発展」、「読書活動の推進」について紹介します。

# ~0歳児(ブックスタート)~紹介

読み聞かせ活動(連携事業) 家庭教育:多様化する家原

行政との連携事業・O歳児(ブックスタート)

図書館:赤ちゃん、幼児向け

- ・おひざにだっこ
- ・おはなし会



P. 10 [(O歳児(ブックスタート)]

#### まず、

・「家庭教育:多様化する家庭環境]では、O歳児(ブックスタート)を促進しました。 ブックスタートとは、地域に生まれた赤ちゃんと保護者を対象に絵本をひらく楽しい 「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動です。

7ヶ月児、相談で、お子さんに絵本をプレゼントしています。

子育て支援課と連携することによる新しい図書館利用者の開拓に繋げることができま した。

子どもの読書活動については、幼児期からの読書習慣の定着が課題であり、読書環境の整備と読書機会の充実を図る必要があります。

図書館でも、赤ちゃんや幼児向けに(ボランティアによる)読み聞かせ事業を行っております。

#### ~公民館との連携~紹介

読み聞かせ活動(連携事業)

社会教育:社会(地域)の持続的発展

公民館と図書館との連携

各公民館に…

・図書館を併設・子どものおはなし会開催



# P. 11 「公民館(図書館)との連携]

#### 続いて、

「読み聞かせ活動(連携事業)」での公民館(図書館)との連携ですが、

寒川町では、総合図書館だけでなく、各公民館に図書館を併設しており、毎月、各館で子どものおはなし会を開催しています。

また、学区ごとに公民館が配置されているので、子どもたちには身近な図書館となっています。

授業で学んだことをその場で調べられる利点もあります。

課題としては、ボランティアの育成があります。

O歳児に本を親しませるブックスタートや、公民館や学校での読み聞かせ活動と連携 しながら、図書館が中心となり、読み聞かせボランティアの育成を促進する取組が必 要です。

# --補足---

赤ちゃんを連れての参加も、移動が楽な事もあり、好評です。

毎月のおはなし会について調査すると、総合図書館と比べて北部公民館、南部公民館の参加者数が少ないのです。

総合図書館は設備や蔵書数、駐車場が多い利点もありますが、

それだけでなく、伝えられる図書館のノウハウが大きく影響していると思われます。 これらを各公民館にも公開する、また、図書館と公民館、それぞれの読み聞かせボラ ンティアの交流を図ることも有効でしょう。

#### ~小学校での読み聞かせ~紹介

読み聞かせ活動(連携事業)

学校教育:読書活動の推進

小学校での読み聞かせ

図書館: "教科書に出てくる お話し"の展示



P. 12 「小学校での読み聞かせ】

中学校では、生徒と先生が静かに本を読む 10分間の朝の読書が定着しています。 小学校では、読み聞かせ活動が行われています。 そして、ボランティアが学校の読み聞かせ活動に参加しています。

学校での読み聞かせ活動から、子どもたちが自主的に図書館に行く、図書館に調べ に行くということへ繋げて行きたいですね。

図書館では各学年、教科書で取り上げられている「教科書に出てくるお話し」の展示を行っています。

課題として、学校図書室の活性化のため、学校図書室を総合図書館の分室にするといった発想の転換も必要、という意見もありました。

学校では司書教諭や図書委員会の担当教員が、読書指導員や図書委員と連携をとって、児童生徒が 図書に親しむ工夫をしています。そのようなところを充実、強化していければ、学校だけではなく、図書館の果たす役割も非常に大きくなるのかなと思いました。

また、学校で読み聞かせ活動をしているボランティアの人々の交流や相談できる体制 を総合図書館が担えると、より良いですね。

3.事例紹介

P. 13 事例紹介

ここからは、ただいま説明してきました現状と課題、取組から、 [学校と図書館の連携]について事例をもって紹介させて頂きます。

#### 3.事例紹介

#### 学校と図書館の連携

→児童・生徒が図書に親しむ工夫

# ジュニア司書制度目的と活動内容

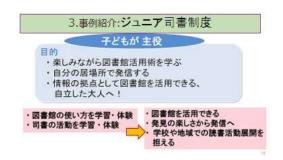


P. 14 [3. 事例紹介]

児童・生徒(こどもたち)が図書に親しむ事例として、

ジュニア司書制度

を推進しましたので、その紹介をいたします。 まずは、その目的ですが、…。



P. 15 [3. 事例紹介]

ジュニア司書制度の目的は、

- ・子どもが図書館の仕事に触れながら、司書の仕事や図書館の仕組みを理解し、図書館の効率的利用方法や本を人に紹介する。
- ・スキルを身につけることによって、人と本を結びつける読書推進のリーダー役として 地域で 活躍できるよう育成する。 などです。

ジュニア司書制度では、図書館を利用しているだけでは見えない部分や、そこで働く司書の仕事についても楽しく学んでもらいます。

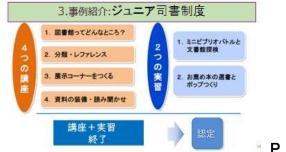
# --背景--

\*アンドリュー・デュアーさんによる「子ども司書制度」では、本を読むきっかけで最も影響を受けるのは親や周囲の大人よりも、自分と同じ年齢の子供たち(友達だった)と報告されています。

10代の子どもにとって、友だちとの関係は大変重要であり、小学生の場合、それは先生と司書が作るきっかけの2倍以上。中高生では、その差は6~7倍とされます。

子供同士の影響力は無視できないということが明らかであることから、ジュニア司書制度は、子供同士の力を活かして読書への関心を高めるために有効だと言えます。

\*アンドリュー・デュアー: 東海学院大学教授: 子ども司書推進プロジェクト代表



P. 16 [3. 事例紹介]

次に、ジュニア司書制度について説明させていただきます。

ジュニア司書制度は、2016年7月(平成28年)に小学5年・6年生、10名で、寒川総合図書館が県内で初めて実施しました。

現在の講座は、小学校高学年から中学生までの児童生徒を対象に実施しています。

ジュニア司書として認定されるためには、

- 4つの講座を受け、
- ・2つの実習を体験します。

講座+実習が終了したら、ジュニア司書認定です。



P 17 [3. 事例紹介]

こちらは、受講の様子です。

アイスブレーキングで参加者の緊張をほぐしてから...。

- ▪講座
- ・ミニビブリオバトル
- 絵本の読み聞かせ
- •展示コーナー作り

などを学びます。

#### --用語解説--

アイスブレーキング: 講座前に行う簡単なゲームや本題に入る前に行う雑談など ミニビブリオバトル: 読んで面白いと思った本を3分間で紹介する(公式では5分間)

# ----[補足] ジュニア司書制度-----

小学校高学年から中学生までの児童生徒を対象に、これまで平成28年度、30年度、令和2年度に実施しました。ジュニア司書認定者による活動は概ね毎月実施していますが、学年が上がることにより、活動卒業となるため、現在活動できる認定者が少なくなってきています。



P. 18 (認定後の活動を説明する)

認定後のジュニア司書に期待することですが、自発的に…。

- 図書館を活用できる
- ・発見の楽しさから発信へ
- ・学校や地域での読書活動展開を担(にな)える

など、となります。

# 認定後の活動

- 1. クリスマス展示コーナー
- 2. 新春福袋
- 3. 配架·読書通帳
- 4. 図書館通信
- 5. 展示:「ジュニア司書が薦める一冊」

➡ ジュニア司書の成長にあわせて活動

- ・カウンタ返却体験
- 読み聞かせ

P. 19 [3. 事例紹介]

ジュニア司書認定後は、図書館の仕事を、お手伝いして頂きます。 また、一度認定されたジュニア司書には、定期的な研修が実施されています。

- ・お話し会での読み聞かせ準備
- ・色々なテーマで本を選定し、中身が見えないように福袋として貸出し
- カウンタでの返却と配架

など、ジュニア司書の成長に合わせて活動内容も増えていきます。

実際のジュニア司書活動の一例ですが、

- ・ ジュニア司書で YA(ヤングアダルト)展示の本の選定と紹介ポップづくりを実施した ら、常に貸出状態となる本が多く、効果が大きかった。
- ・ジュニア司書にブックキャラバンでの選書に参加してもらい、購入資料の絞り込み にも携わってもらったが、選書した本は貸出状況も良い。 などの、ジュニア司書効果がありました。

P. 20

今まで、テーマの選定、現状と課題、取組、そして事例紹介を説明いたしました。 ここからは、[本が大好きな寒川の子どもたちを育てる]ための、活動を振り返ってみま しょう。

#### 4.まとめ

活動を振り返って... 本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために 何ができるか、何をすべきか

児童・生徒が図書に親しむ工夫

今後の課題



活動を振り返って…

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために、何ができるか、何をすべきか、 まとめに変えて、今後の課題についてお伝えします。

#### 4.まとめ:今後の課題

#### 活動を振り返って

児童・生徒が図書に親しむ工夫--

# 4つの課題が見つかりました

- 1) 図書館ボランティアの育成
- 2) 学校図書室との連携
- 3) 地域の多様な主体との連携・共同
- 4) 図書館講座の開催

### P. 22 [4. まとめ]

反省点を踏まえつつ、総合的に活動を振り返ってみると、4つの課題が見つかりました。

# 1) 図書館ボランティアの育成

町民が身につけた知識や経験が生かせるよう、ボランティア活動の充実です。 地域の読書活動推進の担い手として、子どもの読書活動や図書館サービスを支援するボランティアの育成を行います。

# 2) 学校図書室との連携

子どもの読書活動を支援するため、学校と連携した取組の充実です。 学校と連携し、子どもの読書活動の重要性に関する普及啓発を通じ、子どもの読書 活動を推進します。

#### 3) 地域の多様な主体との連携・共同

図書館が学習活動や情報発信の機能を高め、地域、学校、企業など多様な主体との連携を目指します。

多様な主体との連携によって、雑誌スポンサー制度等の地域に根ざした図書館活動 の充実を図ります。

# 4) 図書館講座の開催

図書館は町民の学びを支える施設です、町民の図書館利用促進のための取り組み を推進します。

町民の図書館利用促進を図るため、読書会、研究会、講演会、鑑賞会、映写会、講座等の実施を充実します。



P. 23 [4. まとめ]

子どもたちの読書活動推進のためには、幼い頃から読書に親しむ機会や環境が必要です。

小さいころから読書に親しむことは、子どもの成長や発達に重要な役割を果たし、そ の体験から大人になってからも学び続けることが可能です。

# 私たちの思いは…

「子どもの頃の読書体験が本のある豊かな人生につがる」ということです。 私たちの活動が、その一助となれるのであれば、幸せです。

また、総合図書館は学びを支える地域の情報拠点として、 学習活動や情報発信の機能を高め、家庭・社会(地域)・学校などとの連携とともに、 資料の充実と利用環境の整備、そしてボランティア活動の充実などを、より図る必要 があります。

# 本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために



P. 24 [4. まとめ]

協議テーマである「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために」 ~総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援~では、取り組むべき課題として…、

- ・家庭では子どもの読書活動の推進、
- ・学校では学校図書館への支援、中学・高校生の利用者に対する図書館サービスの充実、
- ・社会(地域)では読書活動を推進するための個人、団体との連携や図書館からの情報発信の充実がありました。

また、図書館へ足を運ばない、読み聞かせや読書習慣のない子育て中の家庭に向けて、子育て支援センターや学校など、図書館以外の場で本に触れる機会を作るといった 総合図書館のアウトリーチ活動の推進も望まれます。

さらには、学校図書館を総合図書館の分室にしてしまいましょう、という発想の転換も 上がりました。

活動期間内の協議で出された様々な意見は、現実的には実行が難しいものもありますが、今後の総合図書館の事業計画に反映されていくことを、期待するものであります。

そして私たち社会教育委員は、家庭・地域社会・学校をつなぐコーディネーターとして、 自覚をもって改めて取組みを続けてまいります。

これをもちまして、寒川町社会教育委員 図書館部会からの発表を終わります。 最後までお聞きくださり、ありがとうございました。

\*アウトリーチ(英: Outreach):「手を伸ばすこと」を意味する英語から派生した言葉で、公的機関や文化施設などによる地域への出張サービスのこと

# ----[補足]-----

学校図書室と総合図書館の連携について】

- ・中学校では、生徒と先生が静かに本を読む 10 分間の朝の読書が定着している。
- ・ 中学校の図書室は、新しい本が多く入るようになって利用が増えている。中学生は 本に関心があるし、本を読んでいると感じている。
- ・ 学校教育の関係から、主体的で、対話的で、深い学びといったことを重視する流れがあります。

そのようなところを充実、強化していけば、学校だけではなく、図書館の果たす役割も非常に大きくなるのかなと思いました。

# ---O歳児(ブックスタート) 補足-----

これは赤ちゃんと保護者に絵本を渡し、絵本を開く楽しい体験と心触れ合うひとときを持つきっかけを作る活動で、平成19年12月から7か月児相談のときに実施しています。

読み聞かせをするのは、ボランティアスタッフ。

「ここに来ると子どもたちの無垢な動きや反応に触れられ癒される」と感想を話していました。